

波乱万丈を経て独立独歩へ  
**現代の五霞**

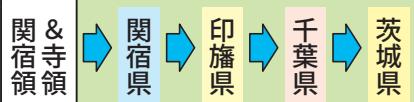
混沌を極めた新時代の黎明期、  
五霞は一致団結して「水と戦う」

**第6回**  
**ごか町の**  
**歴史**

歴史が語られることもなく  
静かに眠り続ける五霞の町  
独自の道を歩む現代の五霞  
茨城の飛び地も  
心は「関東地方の中心地」

交通の大動脈は「水運」から「鉄道」へ — 鉄道が通らなかった五霞は、スタートでハンディを背負う —

**明治** 目まぐるしく変わる所属  
(M22年) 6,815人



※関宿県の時、山王山村のみ「葛飾県」

◆明治22年(1889)、輪中の11ヶ村が合併。この地域は、**五ヶ村**とか**霞堤**とか呼ばれており、**五霞村**が誕生。今年誕生より**137周年**。

・色々な変遷を経て、五霞領域は**明治8年(1875)茨城県に編入**される。

利根川本流以北が茨城、以南が埼玉・千葉と決定(この時、**本流は権現堂川**)



**大正** 大正ロマンは五霞にもおよぶ  
(T9年) 7,208人

・東京の女学生が五霞の若者へ送った手紙。手紙の中の彼女の写真に大正ロマンが薫る。

・橋はまだない  
・県内屈指の養蚕  
・運動会や祭りが娯楽

・水に囲まれ、水害の危険にさらされながら、水が自由にならなかった村、それが五霞。  
ついに立ち上がり、**堤防構築工事を開始**

**昭和(戦前)** 水と戦う五霞  
(S15年) 7,569人

・利根川の堤防構築には鉄道が仮設。土砂運搬には蒸気機関車を使用され、併せて、樋門や閘門も構築されました。(堤防で五霞は水の恐怖から解放されました)

・橋がかかる  
・養蚕→米作り



築堤工事



関宿水閘門通水式

又も運命を変えた利根川改修

**昭和(戦後)** バブルへ船出  
(S35年) 8,645人

・県内有数の米所(どこまでも「黄金色の海」)  
・有名企業の進出

埼玉に接近するも、茨城は遠のき、茨城の飛び地扱い。「**体は茨城でも、心は埼玉**」が多くの町民の想い、とか…。

地盤が固く、治水により関東で最も安全な地域になった五霞は、「安全」と「立地」を武器に、近隣よりいち早く、工業団地・企業の進出誘致や宅地造成(原宿台)等で、時流に乗りバブルの荒波へ漕ぎ出した。

**平成** 村→町へ、そして自立へ  
(H7) 10,380人

・五霞インターチェンジの開通  
・工業地の地価上昇率・全国一

**令和** 情報発信を強化町内→町外へ!  
令和8年1月の人口:7,770人

・積極的な町おこし(テレビの取材や新たな観光物産を)  
・移住・定住を強化(子育て支援住宅など)



新たな賑わいの創出

・役場庁舎と公民館を複合化設備  
・新たに商業施設を誘致



関東の中心地

Goka Town

1.5倍  
昼夜間人口比率  
圏外からの労働力流入

圏央道・新4号国道が生んだ物流ハブ



「ごか町の歴史」は今回で終了します。ご愛読いただきありがとうございました。

○お問い合わせ 教育委員会 生涯学習係/五霞町の文化財を守る会 ☎(84)1462(直通)